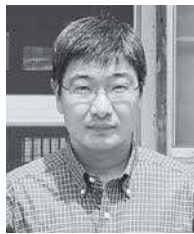




おめでとう 美浦所属馬 GI 優勝



第39回 フェブラリーステークス カフェファラオ号



堀 宣行 調教師



鈴来直人 調教助手

2月20日、東京競馬場(1600m・ダートコース)で行われた、第39回フェブラリーステークスにおいて、美浦トレーニング・センター堀宣行厩舎所属のカフェファラオ号が、ファンの人気に応える見事な走りを見せ優勝しました。

ゲートが開くと好スタートを切るカフェファラオ号。序盤から先頭集団の好位置をキープしレースを進める。終盤に入り最後の直線、各馬スパート態勢に入中、カフェファラオ号もスパートをかける。前を走る2頭を上回る勢いであつという間に先頭に立つと、さらにスピードを上げて差を広げ先頭でゴールへ飛び込む。パワフルかつスピードあふれる走りで、フェブラリーステークス連覇を成し遂げました。

カフェファラオ号の厩務を担当する鈴来直人調教助手は、「以前と変わらず、普段はおとなしくて、優しい馬です。競馬場に着いて馬房にいる時、落ち着いてはいるのですが、集中している感じがひしひしと伝わってきました。レースで勝てて率直に嬉しいですが、昨年のフェブラリーステークス以来、馬のコンディションは良いのですがなかなか勝つことが出来なかったので今回勝ててホッとしました。」と語ってくれました。また、今後について「力のある馬なので、ケガ無く、競走馬として全うしてほしいです。また、東京競馬場のダートコースでしか良い結果が残せていないので、他の場所でも活躍し、良い結果が出せれば。」とおっしゃられました。今後のカフェファラオ号のますますの活躍が期待されますね。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、厩舎には訪問せず電話による取材とさせていただきます。



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び『歌・会』

ひとり歌えばつられて歌う昭和歌謡になごむ夜
久し振りにねとコロナ禍忘れ雅友と笑顔で俚謡会
流行歌など今時ないやけにうそぶく演歌歌手
戦禍逃れて瓦礫の上で歌で励ます音楽家
マイク片手に振付け入りで十八番昭和の演歌節
古希で再会セカンドラヴに心ときめく寅の年
アイヤアイヤと北島演歌何度聴いても沁みてる
つくば仰いで校歌を唱いペダル踏みつつダイエツト
歌う小鳥に蝶々の舞いに里は明るい花の春
今の歌には付いては行けず昭和演歌を口ずさむ
遠く離れて会えない姉の変わりないかと来たメール
会えぬわが子へ十一年の想い届ける鳩風船
認知クリアで運転出来てあとは「三」とる俚謡の会
戦禍のがれて子供が歌う和むひとときウクライナ
愛し人なの会えない日々の想いスマホで繋ぐ声
会うに会えずに悲しい最後コロナ憎きと怒む日々
雅友と会えずにスマホで会話コロナ長引き気が減る
遠く聞こえる生徒の校歌今は懐かし青春歌
海は荒波塩屋の岬歌碑は悲恋の「みだれ髪」
又も休みか楽しい会もコロナくやしい先見えず
三月の俳句 (題 当季雑詠)
逝く句友の黄泉路照らせよ春の月
ほうれん草茎の赤きは甘かりし
ひなまつりあこがれ初めつをみなごに
雪の朝白鳥一羽旅立ちぬ
おだやかにただ穏やかな春を待つ
ふるさとのヨモギ餅つき雛飾る
あたたかや箒塵取投げ捨てて
あの岐路へ戻りたき日の風車
春風や心新たに胸たたき
荒れ土地に凜と咲きたる白き梅
イケメンもミモザもありぬ和菓子カフェ
如月の空はカンバス雲を置く

石戸律華 伊藤葉子 井戸賀蘇道 上野八千代 小蘭江久美 門脇悠美 木村幸子 酒川夢花 篠原美千代 関根秀子 高橋一步 田島草実 塚本夏雲 沼寄朋香 長谷川悦子 増尾青蓮 山岡亜子 山岸錦洋 山崎笑子 山崎泰弘 (五十音順) 青野安佐子 石毛恵美子 市川紀行 海道民子 木澤はしめ 小林美佐恵 高柳幸子 田島早苗 中島輝子 長田敏笑 増尾尚子 山口美代子